放送大学大学院ガイダンス用

入学を希望する方たちへ―博士後期課程体験談

人文学プログラム　2022 年度修了生　堀井惠子

私は基本的にかなり楽観的な人間だが、博士課程に関しては、恐れることはないが、相当の覚悟をもって対峙されることをお勧めする。なぜなら、入学後の課程を経て、修了のゴールとなる博士論文を執筆し審査に通るまでには、それまでに経験をしたことのない厳しい学術の世界を多くの人が体験することになるのではと思うからだ。最終的にはそれが醍醐味となるのだが・・・。

日本では数少ない通信制で学べる博士課程ということもあって、応募倍率は、特に、人文学はかなり高いようだ。筆記試験は過去問を参考にすればある程度想定できると思う。一方、他大学同様、放送大学の修士課程から同じ指導教員の下で博士課程に進む場合は研究テーマを決めやすいが、そうでない場合は、領域適合性を確認した上で、実現可能性・発展可能性・将来性に説得力を持つ研究テーマをたてることが大切になると思う。人文学プログラムの中には 4 つの領域があり、領域によっては研究方法の違いもあるので、自分の研究がどの領域のどの先生の指導に相当するかを想定しておくと、研究計画書をまとめる際に的が絞れると思う。研究テーマは、修士論文が元になる場合が多いと思うが、博士論文に深化させることができるかどうか、先行研究をていねいに扱うことによっていろいろなヒントが見つけられると思う。研究方法も年々進化しているので確認をしておくとよい。

幸い、入学できたら、1 年目はメジャー分野の特論で人文学プログラムの先生方の授業を受ける。隣接分野を含め、どの授業も専門性が高い内容で、大変興味深かった。また、メジャー分野の研究法に加え、マイナー分野として、私は、社会経営学プログラムの研究法を学んだが、複合的に自分の研究の参考にすることができた。

並行して 1 年目から特定研究で博士論文指導を受けるが、まずは、自律的に進めていく覚悟を再度固めるとよいと思う。さまざまな研究上の壁にぶつかるたび、自分で考え抜くことが自分の力になるからだ。一方、研究の進捗報告や執筆された内容については、指導教員から、的確で有意義なコメントをしっかりいただくことができたので、そこで、いつも、次の次元に、なんとか、ときには、飛躍的に進むことができた。また、論文審査で副査を担当される副指導教員からも、それぞれの視点からの丁寧なコメントをいただくことができたので、別の角度から多くのことに気づき、論文執筆に役立てることができた。

私は本務が忙しすぎて 3 年間の休学を余儀なくしたが、時間をかけることも状況によっては必要であろう。復学を温かく迎えていただき、最後までたどり着くことができたが、論が立たずしばしば絶望的になる時も、研究への情熱と「あきらめない」気持ちが救ってくれたと思う。社会人になって、それも、年を重ねてから、あらためて本格的に学びに向かえたことは大変幸せだったと思う。放送大学大学院博士課程が、「挑戦するに値する場」であったことに深く感謝する。成果を社会に生かせるものにしていければと、今、考えている。